家　　庭

1　学習指導と評価の工夫・改善

専門教科「家庭」においては、家庭の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活産業の社会的な意義や役割を理解させるとともに、家庭の各分野に関する諸課題を主体的、合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育成することが目標とされており、①専門性の基礎的・基本的な知識や技術を確実に習得させるための学習指導、②専門的な学習への動機付け、卒業後の進路や職業について生徒の意識を高める学習指導、③少子高齢化や生活産業の高度化・サービス化等に対応した学習指導、④消費者教育や環境教育に関する学習指導、⑤ホームプロジェクトの実践と学校家庭クラブ活動の充実を図る学習指導などが求められている。

また、指導に当っては、個に応じた指導の改善・充実が重要であり、生徒一人一人のよい点や進歩の状況等を把握し、適切な評価を行うとともに、評価の結果を指導の改善に生かすなど、指導と評価の一体化を図ることが大切である。そのためには、指導目標を明確にし、評価の観点別による評価規準を盛り込んだ評価計画表の作成などを通して、指導と評価の改善・充実を図ることが重要である。

2　評価方法の改善・充実

(1) 評価計画表の作成

ア　作成上の留意点（参照：普通教科「家庭」Ｐ 73）

イ　評価計画表の例

原則履修科目「生活産業基礎」について、単元『（３）生活産業と職業』を例とし、「内容のまとまりごとの評価規準」と「評価規準の具体例」、および「学習活動における具体の評価規準と評価方法」を項目として作成した評価計画表を次に示した。

科目名「生活産業基礎」　単元名「（３）生活産業と職業」

科　目　名	生活産業基礎			
単　元　名	（３）　生活産業と職業　イ　衣生活関連分野			
単　元　の　目　標	・食生活、衣生活、住生活、ヒューマンサービス関連分野の生活産業の種類や特徴を理解し、関連した職業を知る。 ・生活産業の市場調査、産業現場等の見学、就業体験等を行い、関心を高め、発表を通じて生活産業の理解を深める。			
評　価　の　観　点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
内容のまとまりごとの評価規準 （「生活産業基礎」の内容の大項目(3)生活産業と職業の評価規準）	食生活、衣生活、住生活、ヒューマンサービスなどに関連する分野の生活産業の種類や特徴、関連する職業について関心をもち、意欲を持って学習活動に取り組んでいる。	食生活、衣生活、住生活、ヒューマンサービスなどに関する分野の生活産業と職業に関する学習の中から課題を見付け、解決を目指して思考を深めている。	調査活動、産業現場等の見学、就業体験などの学習活動を計画し、その成果を的確に表現、発表することができる。	食生活、衣生活、住生活、ヒューマンサービスなどに関する分野の生活産業の種類や特徴、意義と役割、産業と環境との関わりを理解している。
評価規準の具体例 （中項目イ「衣生活関連分野」の評価規準の具体例）	・アパレル産業における商品の企画、生産、販売方法などに関心を持っている。 ・デザイナー・パタンナーなどのファッションに関連する職業や資格について関心をもち、調べようとしている。	・産業現場等の見学、就業体験、調査などの学習活動の中で、自分なりに課題を見つけ、解決を目指して考え、工夫している。	・産業現場等の見学、就業体験、調査などについて計画を立てて実践するとともに学習活動のレポートにまとめたり、発表したりすることができる。	・ファッションに対する関心が高まっている実態について理解している。 ・アパレル産業の意義と役割、関連する職業に必要な知識や、技術資格などについて理解している。

			関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
学習活動における具体の評価規準・評価方法	イ 衣生活関連分野	・１時間目 ・２時間目 衣生活関連産業の職業と資格 （２時間）	①ファッションデザインに関する職業や資格などの言葉を連想し、関心をもってワークシートの記入に取り組んでいる。	（評価規準設定なし）	①ファッションデザインに関する職業や資格などについてワークシートにまとめ、発表することができる。	①ファッションとアパレルの相違やファッション産業の構造を理解している。
			◎ワークシート※１ ○観察（取組状況）		◎ワークシート ○観察（発表）	◎ワークシート
		・３時間目 ・４時間目 衣生活の変化と生活産業の関わり （２時間）	②衣生活の変化と生活産業の関わりについて、関心をもって資料を活用し、プリント作成に取り組んでいる。	①我が国の衣生活の現状と生活産業の関わりをもとに現代社会における衣生活の課題を考えることができる。	②衣生活の変化を祖父母や父母の時代と現代の衣生活の比較をファッション雑誌や写真などからとらえプリントにまとめることができる。	②衣生活の変化に応じて生活産業が関わっている現状を理解している。
			○観察（取組状況）	◎プリント	**◎プリント※３**	○プリント
		・５時間目 ・６時間目 ・７時間目 ・８時間目 社会人講師の講話と技術指導 （４時間）	③ファッションデザインに関する職業に興味をもって講師の話しを聞いたり技術指導を受けている。	②社会人講師の講話や技術指導から自分の進路実現に必要な知識技術や目標を考えることができる。	③商品開発の視点からデザイン画の技術を身に付けようとしている。	③社会人講師の講話からファッションに対する人々の関心が高まっている現状について理解している。
			◎講話プリント ○観察（受講状況）	**◎講話プリント◎※２**	◎デザイン画	◎講話プリント
		・９時間目 ・10 時間目 ・11 時間目 ・12 時間目 店舗見学によるアパレル産業の実態調査（４時間）	④製造販売アパレルにおける商品の企画、生産、販売方法などに、関心をもって調査している。	③店舗見学によるアパレル産業の実態調査から課題を自分なりにとらえ、生活の中で工夫する考えを持っている。	④商品開発から販売までの過程をシュミレーションし、流通に沿った計画書を作成し、発表することができる。	④アパレル産業の実態から意義と役割、関連する職業に必要な知識や技術、資格などについて理解している。
			○観察（取組状況） ◎調査メモ記入状況 **◎ワークシート※１＋**	◎レポート ○観察（取組状況）	◎レポート ◎観察（発表）	◎ワークシート ◎定期テスト ［学期末に実施］

注１：◎　単元の評価の総括の資料とする。　○　単元の評価の総括の資料としない。
注２：※１～【関心・意欲・態度】を評価する「ワークシート」の具体例（P 115）
※２～【思考・判断】を評価する「講話プリント」の具体例（P 116）
※３～【技能・表現】を評価する「プリント」の具体例（P 117）

(2) 観点別評価の進め方

ア 考え方（参考：普通教科「家庭」Ｐ 75）

イ 評価方法の具体例

(ｱ) ワークシートによる【関心・意欲・態度】の評価について※１

この単元では、衣生活関連分野の生活産業の種類や特徴、関連する職業について関心をもっているか、進んで学習活動に取り組んだり、意欲的、積極的に課題解決をしようとしているかなどについて評価する。

〔具体の評価規準及び評価の観点〕

「ファッションデザインに関する職業や資格などの言葉を数多く連想し、関心をもってワークシートの記入に取り組んでいる」【関心・意欲・態度】①

〔評価方法〕

ワークシート(ウェビング法）の記述の点検・分析

〔評価の実際〕

・１時間目に記述させ、点検・分析により評価する。また、12 時間目に追加記述させ（※１＋)、【関心・意欲・態度】の度合いの変化を評価する。

〔留意事項〕

・【関心・意欲・態度】の評価では、ワークシートやプリントの記述だけではなく、教師による観察なども合わせ、複数の評価の機会を設け、多面的に評価する。その際、進んで実践しようとする意欲や態度に着目し、一人一人の学習状況や変容の姿などを把握するよう心がける。

・この評価方法においては、「ファッションデザインに関する職業や資格について連想する言葉（テキスタイルデザイナー、パタンナー〈カラーコーディネーター検定、衣料管理士〉など）が具体的に書かれ、関連する語彙が線などで結び付けられている状況」を、評価（A）とする。

・評価（C）の生徒への手だてとしては、ファッション雑誌等の資料を活用することで興味を持たせながら、職業や資格などについてイメージさせたりして、ワークシートに記入できるよう援助する。

《ワークシート（例）》

1 年（　）組（　　）番氏名（　　）

ファッションデザインに
関する職業や資格は？

※1時間目の記述は消さないこと。12 時間目には、1時間目と筆記用具の種類を変え、違いがわかるよう工夫しましょう。

「ファッションデザインに関する職業や資格は？」から連想する言葉を自由に書いてください。関連があるようだと思った言葉同士を線で結んだり、矢印を書いたりします。この記述から、皆さんの【興味・関心】の度合いをみます。

この単元「生活産業と職業」の授業の最初1時間目と最後の 12 時間目に記入します。（同じシートを使用）連想した言葉の数の変化と言葉（名称）の内容の質から評価します。

(ｲ)　講話プリントによる【思考・判断】の評価について※２

この単元では、社会人講話や技術指導、店舗見学などの学習活動の中で、課題をどのようにとらえているか、課題解決を目指して自分なりに工夫したり、自分の考えを生かした取組をしているかについて評価する。

〔具体の評価規準及び評価の観点〕

「社会人講師の講話や技術指導から自分の進路実現に必要な知識・技術や目標を考えることができる」【思考・判断】②

〔評価方法〕

講話プリントの記述の点検・分析

〔評価の実際〕

・社会人講話や技術指導の５～８時間目に、講話プリントに講話内容等をまとめさせ、自分の進路と結びつけた考えが書かれているかを分析し、評価する。

（事前に講話プリントの前半は生徒に記入させ回収し、質問項目をまとめ講師へ

伝えておく。）

〔留意事項〕

・【思考・判断】の評価では、学習を終えた時の考えだけでなく、学習過程においてどのように考えたか、一人一人の個性を生かして創意工夫ができたか、今後の生活産業の発展の方法を考えたり、興味・関心の対象が広がったかなどをみるように心がける。

・この評価方法においては、「社会人講師の講話や技術指導から、自分の進路実現に向けた知識・技術や目標が具体的に書かれている状況」を、評価（A）とする。

・評価（C）の生徒への手だてとしては、講話内容を振り返らせ、自分の進路と重なるところがないか、質問などしながら考えが深まるよう個別指導を行う。

《社会人講師による講話プリント（例）》　　年　組　番　氏名

平成○年○月○日　「ファッションデザイン画の描き方入門」　講師　○○ファッション専門学校　○○先生

1、ファッション業界であなたが一番興味のある仕事は何ですか。
ア、ファッションアドバイザー・販売員　　イ、ファッションバイヤー
ウ、ファッションスタイリスト　　エ、パタンナー　縫製技術者
オ、ファッションデザイナー　テキスタイルデザイナー　　カ、興味がない

2、ファッションデザイン画の描き方について一番知りたいことは何ですか。
ア、人体のバランス（１０等身の描き方）　　イ、ポーズ
ウ、顔の描き方、手の描き方、足の描き方　　エ、洋服の着せ方
オ、ペン入れの方法　　カ、着色の方法

3、ファッション業界について、疑問や質問をこの機会に○○先生に聞いてみましょう。
（事前に先生にお知らせして、講義の中でお話してもらう予定です。）
①＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
②＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
③＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ここでいったん提出です！

4、講話を聴いて考えたことをまとめてみましょう。

5、デザイン画の技術指導で感じたことを書いてみましょう。

6、講話と技術指導をして下さった○○先生へなにか一言！お伝えしたいことなど書きましょう！

本日中に提出してください！

(ｳ) プリントによる【技能・表現】の評価について※３

この単元では、生活産業と職業に関する学習や店舗見学などについて、学習活動のプリントをまとめたり発表したりすることができるかについて評価する。

〔具体の評価規準及び評価の観点〕

「衣生活の変化を祖父母や父母の時代と現代の衣生活の比較をファッション雑誌

や写真などからとらえ、プリントにまとめることができる」【技能・表現】②

〔評価方法〕

プリントの記述の点検・分析

〔評価の実際〕

・３時間目に、衣生活の変遷について年表や歴史資料などを配布し、祖父母・父母の年代のファッションをとらえさせ、４時間目に年代による衣生活の変化を比較し、プリントにまとめているか、記述の点検・分析から評価を行う。

〔留意事項〕

・【技能・表現】の評価では、プリントのまとめ方や技能や表現について評価するだけでなく、課題の目的が的確にとらえられたか、目的を達成するために適切な方法を選択できたか、まとめにおいて特徴や気付いたことを加えて表現できたかなどを評価するように心がける。

・この評価方法については、「祖父母や父母の時代のファッションと現代のファッションとの比較を、図や表にわかりやすくまとめて記入されている状況」を、評価（A）とする。

・評価（C）の生徒については、ファッション雑誌の比較から、変化しているところを指示、誘導しながら、プリントへ記入できるよう援助する。

《プリント（例）～ファッションの変遷をまとめよう～》

年　組　番　氏名

●祖父母・父母が今のみんなと同じ年代だったころのファッションを調べ、特徴をまとめてみましょう。
服装だけでなく、ファッション小物の記入や、その年代に関連ある衣生活関連産業なども記入しましょう。

祖父母の年代（　　年ころ）	父母の年代（　　年ころ）	私の年代（　　年）

年代を追ってファッションの変化についてどのように考えましたか。

(ｴ)　【知識・理解】の評価について

この単元では、衣生活関連産業の職業と資格、衣生活の変化と生活産業の関わりなどについて理解しているかどうかについて評価する。

〔指導上の留意点〕

・この単元の【知識・理解】の評価方法については、ワークシートやプリントの内容、定期考査等により評価する。

・評価の際は、学習目標を生徒に明確に示し、習得すべき生活産業と職業に関する基礎的・基本的な知識を確実に身に付けさせるようにする。

・ペーパーテスト（小テスト・確認テスト・定期考査など）では、調査や発表での学習をより確かなものにするための評価を心がけるようにする。

(3) 観点別評価の総括

ア　総括についての考え方（参照：普通教科「家庭」Ｐ 79・Ｐ 80）

イ　単元（題材）ごとの観点別評価およびその総括について

各単元（題材）で身に付ける資質や能力を明確にし、単元（題材）ごとの評価計画を作成して具体的な評価規準を設定する。その際、単元（題材）によって重視する観点や評価規準があれば、評価計画作成段階から、評価回数を多くしたり、重み付けをしたりするとともに、観点の趣旨にふさわしい評価方法を適切に選択し、組み合わせるなど多元的に評価することが必要である。また、一つの評価規準に対して複数の評価方法がある場合には、あらかじめ各評価方法による評価規準のとりまとめ方法についても、定めておく必要がある。

本事例「生活産業基礎」の単元「生活産業と職業～衣生活関連分野～」における観点別学習状況の評価の重み付けは、以下の表の通りとした。

学習内容（時間）／４　観　点	1 衣生活関連産業の職業と資格（２時間）	2 衣生活の変化と生活産業の関わり（２時間）	3 社会人講師の講話と技術指導（４時間）	4 店舗見学によるアパレル産業の実態調査（４時間）	合　計（%）
関心・意欲・態度	30%	10%	30%（20 ＋ 10）	30 %（20 ＋ 10）	100
思考・判断		30 %	35 %	35 %	100
技能・表現	30%（15 ＋ 15）	20 %	20 %	30%（10 ＋ 20）	100
知識・理解	20%	10 %	30 %	40%（25 ＋ 15）	100

※本事例における観点別学習状況の評価の重み付けの例である。また【関心・意欲・態度】の3・4と、【技能・表現】の1・4と、【知識・理解】の4の題材については評価項目が複数あるので、（　　）内の重み付けをする。それぞれの観点別学習状況の割合を表のように点数化し、評価資料に重みを付けて評価していく方法である。

《具体例》前期・後期ごとの観点別評価をもとに評定へ総括する方法（○○さんの例）

観点／単元	単元1	単元2	単元3	単元4	前期	単元5	単元6	単元7	単元8	後期	学年末
関心・意欲・態度	~~C~~ B	B	A	A	A	A	B	A	A	A	A
思考・判断	B	B	A	B	B	A	B	B	A	B	B
技能・表現	B	A	A	B	A	A	B	A	B	A	A
知識・理解	B	B	~~C~~ B	B	B	C	~~C~~ B	B	B	B	B

評定 4

※A・B は２倍の重み付けの観点である。よってAはＡＡ、B はＢＢとなる。
※評価の重み付けについて 指導のねらい、授業時数、評価方法に応じて重みを付けることが考えられる。その学習成果を重視し２倍の重みを付けた例である。

ウ　学期および学年の各科目の観点別学習状況の評価について

イと同様の方法で、単元（題材）ごとの観点別学習状況の評価を行い、４つの観点ごとに総括して、学期ごとの観点別学習状況の評価とする。その際、補充指導の成果を生かして修正するなど、生徒の進歩の状況について配慮する必要がある。

実験・実習の多い教科の特質から「努力を要すると判断される状況」と評価（C）される生徒への対応が遅れないよう、毎時間の授業における生徒の活動状況を十分把握し、 一人一人の生徒に応じた助言や具体例の提示などを行うことが大切である。また、事後のできるだけ早い時期に、個別指導による具体的な指導を行うことも大切である。

この他にも、観点別評価の総括についてはさまざまな考え方や方法があり、各学校において工夫することが望まれる。